

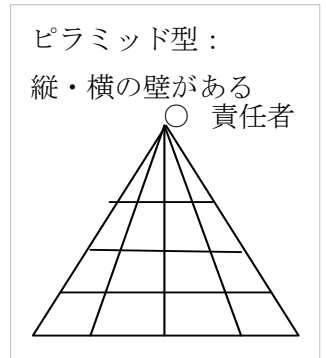
「多職種協働」即ち「チームプレイ」について、再び考えましょう。

多職種協働は私達老健の特徴と言われます。

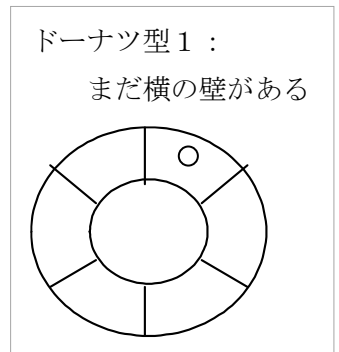
医療・介護分野が種々に機能分化する中で老健は典型的な「多職種協働」の職場であり、そしてそれを期待されています。

その「多職種協働」は3つの段階があると言われています。
第一段階はピラミッド型、第二段階はドーナツ型1、第三段階はドーナツ型2です。

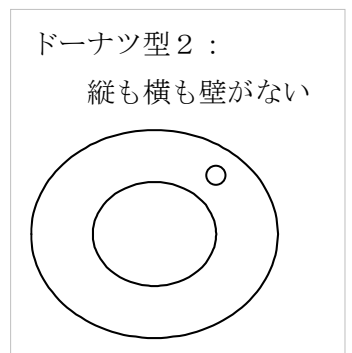
第一段階のピラミッド型は、従来からある上位下達型縦割り役割分担で軍隊が典型です。これは横の連携が出来難く、責任もトップに集中します。トップは主に医師がなります。多少の理不尽は目的の達成のためには無視されます。



第二段階のドーナツ型1は、平坦型縦割り役割分担で、リーダーは医師と限る必要はありません。責任もメンバーの共同責任になり横の連携はし易くなります。しかし役割分担は縦割りのままなので一職種欠けるとその分の業務に支障が生じます。



第三段階のドーナツ型2は、平坦型役割重複型役割分担で、リーダーは職種を問いません。責任もメンバーの共同責任です。第2段階と違うのは役割分担が相互に重なり、互いに手を出し合えるため一職種欠けても急場をしのげる程度に業務に支障が出ない状態になります。言うまでも無く第三段階のドーナツ型2が「理想の多職種協働」です。



私達はこの第3段階の「理想の多職種協働」を目指します。

但しこれは覚悟が要ります。

自分の意見は臆することなくしっかり言うことと、相手の意見をしっかり聞くことです。そして自分の意見は3割で抑える7-3ルールを自分に課すことです。お互いにかなり譲り合う覚悟がないと実現は難しい。

7割は相手の意見を入れながら、やっけて行く中で予想外により良いものがお互いに自然に分ってきます。